

シマフクロウの放鳥について

1. 今回の放鳥の概要

(1) 目的

シマフクロウの生息地の拡大・充実を図るための野外つがいの形成及び分散。

(2) 放鳥の日時

平成 28 年 10 月 10 日（月）16 時頃

(3) 放鳥地の概要

釧路総合振興局管内。

当該地でのシマフクロウの繁殖や定着は近年確認されていないものの、既存の生息地の間を繋ぐ重要な地域であることから※、平成 23 年（2011 年）より餌資源調査を実施し周辺河川において魚類が豊富に生息していることが確認されるとともに、平成 24 年（2012 年）には巣箱を設置している。このような背景を踏まえ、今回、放鳥地として選定した。

※現在、シマフクロウの生息地は分断されており、今後は生息地を拡大するとともに既存の生息地を繋いで行くことが課題となっている。

(4) 放鳥個体

釧路湿原野生生物保護センターにて保護飼育していた「つがい」。平成 22 年（2010 年）よりつがいでの飼育を開始し、これまでに 2 回の飼育下繁殖に成功している。

放鳥個体の概要は以下の通り。

性別	生年	出生地	保護年月	保護の原因
オス	2005 年	知床地域	2005 年 9 月	不明（林内に座り込んでいたところを保護）
メス	2006 年	根室振興局管内	2007 年 9 月	交通事故

(5) 放鳥の方法

放鳥する環境に順化させるため、あらかじめ放鳥現場に設置した順化ケージにつがいを搬入し、10月7日から放鳥までの間、飼育を行った。順化飼育中は、順化ケージより少し離れた場所に飼育員が待機し、餌やり等を行った。

10月10日の16時22分に順化ケージの扉を開放したところ、16時28分にオス、16時29分にメスがケージ外に飛び出した。

オス及びメスの両方の尾羽に位置情報を確認出来る発信器を、オスにはさらに位置情報をGPSで記録・送信できる機器を背部に装着しており、現在、放鳥後の行動をモニタリングしている。

2. これまで実施した人為的な放鳥の実績

平成5年(1993年)以降、これまでに計11例[※]の人為的な放鳥を実施している。これらのうち8例が野外つがい形成を目的とした放鳥であり、うち3例が繁殖に成功したことが確認されている。

つがいでの放鳥は今回が2例目。過去に行った1例ではモニタリング中に行方不明となり繁殖の確認には至っていない。

※傷病個体をその保護した場所や本来の生息地に戻す放鳥は含めない。